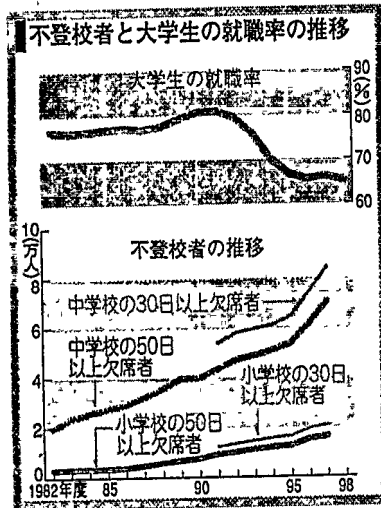


大学卒の就職率 戦後最低65.6%

文部省調査 男子の不調、際立つ

朝日 98.8.7

AA19980051J1



大学を卒業したのは前年より四千八百人増の五十二万九千人。このうち、就職者は四年ぶりに減って三十四万七千人。卒業者に占める就職者の割合六五・六％は、卒業者が千八百人しかいなかった五〇年を除くと、過去最低となった。

男女別では、女子の就職者が四千八百人増加したのに対し、男子は七千人も減っており、男子の就職の不調が際立っている。

大学院などへの進学者は二年ぶりに千七百八人増えて五万人、進学も就職もしない無業者も三千人増えて八万三千人。

大学生の就職問題を担当する文部省学生課は「不況のほか、大学院定数が増えたことなどで、進路が多様化したことも一因」と話している。

「学校嫌い」を理由に三十日以上、学校を休んだ不登校の子どもは、小学校で二万七千五百四十四人（千二百五十六人増）、中学校で八

万四千六百六十人（九千八百七人増）。データをとり始めた九一年度から六年連続で過去最高を記録した。増加率は、小学校で六・四％と鈍化した。中学校は二・一％であり落ちている。

この結果、不登校者の比率は、小学校で〇・二六％、中学校が一・八九％に。小学校では三百七十八人に一人、中学校で五十

不登校10万人台 昨年度の中学校

今春、四年制大学を卒業した学生の就職率が六五・六％と前年より一割下がり、実質的に戦後最低になったことが六日、文部省の学校基本調査（五月一日現在）の速報でわかった。不況で、企業の採用意欲が冷え込んだことが主な原因と文部省は見ている。一方、一九九七年度中の一年間に、小中学校を三十日以上休んだ不登校（登校拒否）の子どもは、一万八千人増えて十万人を超えた。前年度比一一・七％増と急増傾向が続いており、文部省は今秋、初めて元不登校者の追跡調査を始めることにした。（30面に関係記事）

学校基本調査の主な記録

- 過去最高> 3歳児の幼稚園児数 371,313人
- 女性校長数 3,739人
- 女性教員の比率 小学校 62.2% 中学校 40.5% 高等学校 24.7%
- 高校進学率 96.8% (前年と同率)
- 大学・短大への進学率(浪人を含む) 48.2% (前年と同率)
- 大学生数(大学院生などを含む) 2,667,298人
- 大学生(同)に占める女子の比率 34.9%
- 過去最低> 小学校の児童数 7,683,531人 (17年連続の減少)
- 中学校の生徒数 4,380,605人 (12年連続の減少)
- 中卒者の就職率 1.3%
- 高卒者の就職率 22.7%

(一九九八年五月一日時点)